

## < B 鑑賞 >

### (1) 鑑賞の活動を通して

## 第1学年 B 鑑賞

題材名「ようすをおもいうかべて」

教材名「おどるこねこ」アンダソン作曲

### 【第1学年及び第2学年の目標】

- (1) 楽しく音楽にかかわり、音楽に対する興味・関心をもち、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を育て、音楽表現の楽しさに気付くようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を育て、音楽を味わって聴くようにする。

### 【第1学年及び第2学年の鑑賞の指導事項】

- ア 楽曲の気分を感じ取って聴くこと。
- イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取って聴くこと。
- ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲や演奏の楽しさに気付くこと。

### 【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア, ウ

- ・楽曲の流れを感じ取りながら、こねこが踊る様子や逃げる様子を想像し、聴く楽しさを味わう。
- ・音楽を聴いて想像したことや感じ取ったことを体の動き、擬声語、言葉などで身近な相手に伝えるなどの活動を通して、聴く楽しさに気付く。

### 【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 「おどるこねこ」を聴いて、気付いたことを発表する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・音色や旋律から曲の気分を感じ取る。</li><li>・特徴のある旋律や音色に着目する。</li><li>・音色、旋律などから感じたり想像したりしたことを話す。</li><li>・教科書の挿し絵を見ながら聴き、感じたことや想像したことを話す。</li><li>・「おどるこねこ」を聴いて、こねこのどのような様子を思い浮かべたか伝え合う。</li><li>・旋律に繰り返しの部分があることに気付く。</li></ul>	音色 旋律 問いと答え
<p>○ 「おどるこねこ」の曲に合わせた体の動きを工夫する。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・曲の気分に合わせて体を動かしたり、動き方を想像して友達と一緒に踊ったりする。</li><li>・旋律の動きや速度の変化を感じ取り、こねこの踊る様子を想像して動く。</li></ul>	反復  旋律  速度

<p>○ 主な旋律の音色や、曲全体の気分について感じたことを言葉で表す。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・曲を聴いてこねこのどのような様子を思い浮かべたか伝え合ったり、想像したことを絵に表して見せ合いながら話したりする。</li> <li>・曲の気分を感じ取り、そこから想像したストーリーなどを教師や友達に紹介する。</li> <li>・曲の中の好きな部分について言葉で表現し、教師や友達に伝える。</li> </ul> <p>※思い浮かべたり想像したりしたことについては、どうしてそう思ったか問い掛ける。</p>	<p>音色 リズム 旋律 反復 問いと答え</p>
---	---

### 【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・曲を聴いて、曲の気分に合わせて体を動かしたり、こねこが踊るまねをしたりするなど、楽曲の楽しい気分を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。</li> <li>・「おどるこねこ」を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉や動き、絵などで表す活動に、進んで取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おどるこねこ」の楽曲全体にわたる気分を感じ取って聴いている。</li> <li>・音色、リズム、旋律、拍の流れ、反復などの関わり合いから、こねこの踊る様子などの想像したことや感じ取ったことを言葉や体の動きで表し、楽曲や演奏の楽しさに気付いて聴いている。</li> </ul>

低学年では、音楽を聴く楽しさを十分に味わうようにすることが重要です。そのためには、子どもたちが思いを広げながら楽曲の気分を感じ取って聴いたり、音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取って聴いたりすることができるような学習活動の工夫・教材選択の工夫が大切になります。

鑑賞の授業に限らず、動物のまねをしながら曲に合わせて動く活動はよく取り入れられています。活動するうちに、動物のまねをすることが中心になってしまっている場合もあります。体を動かす活動は、それ自体をねらいとするのではなく、音楽を感じ取るための手だての一つです。「楽曲の気分を感じ取って聴く」「音楽を形づくっている要素の関わり合いを感じ取って聴く」という趣旨を踏まえた体験活動であるので、子どもたちが、楽曲の何を感じ取って体を動かしたり絵で表したりしているのかを見取り、的確な働き掛けをしていきましょう。

## 第4学年 B 鑑賞

題材名「日本の民謡に親しもう」

教材名「ソーラン節」「南部牛追い歌」

### 【第3学年及び第4学年の目標】

- (1) 進んで音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を伸ばし、音楽表現の楽しさを感じ取るようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を伸ばし、音楽を味わって聴くようにする。

### 【第3学年及び第4学年の鑑賞の指導事項】

ア 曲想とその変化を感じ取って聴くこと。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造に気を付けて聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付くこと。

### 【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → ア、イ、ウ

- ・日本の民謡のよさや面白さに気付き、親しむ。
- ・日本の民謡の旋律やリズム、拍の流れなどの特徴を感じ取り、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴く。
- ・いろいろな日本の民謡や郷土の音楽、外国の民謡などに興味を持って比べて聴き、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴く。

### 【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 「ソーラン節」を聴き、曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全体を通して聴き、知っていることや感じたことを出し合う。</li><li>・歌詞を提示し、どのような場面で何をしているのか、想像しながら聴く。</li><li>・映像や写真などから、どのような場で何をしているのか、曲名や北海道民謡ということも確認する。</li><li>・印象的な部分の旋律や合いの手、掛け声などをまねしたり、手拍子などをしたりしながら聴く。</li></ul> <p>○ 「南部牛追い歌」を聴き、曲の感じをつかむ。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・全体を通して聴き、気付いたことや感じたことを出し合う。</li><li>・歌詞を提示し、どのような場面で何をしているのか、想像しながら聴く。</li><li>・映像や写真などから、どのような場で何をしているのか、曲名や岩手県民謡ということも確認する。</li><li>・冒頭部分や最後の部分を一緒に口ずさみながら聴く。</li></ul>	<p>ここでは楽曲を分析的に聴くのではなく、楽曲全体を味わい、日本の民謡を聴く楽しさに気付くようにするため、あえて〔共通事項〕を示していません。</p> <p>歌詞や曲の雰囲気から情景や様子を思い浮かべ、長い年月にわたって歌い継がれてきた日本の民謡に親しませるようにしましょう。</p>

<p>○ それぞれの曲を聴きながら、二曲の特徴を感じ取る。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・旋律の音の動きを線や図で表し、その違いを言葉で説明する。</li> <li>・リズムを手で打つなどして、その違いを言葉で説明する。</li> <li>・その他、歌い方（声の出し方）や速度など、気付いたことを出し合う。</li> <li>・それぞれの曲の感じの違いを、観点ごとにとらえた言葉を使って表す。</li> <li>・「私は〇〇の方が好きです。なぜなら……」というような形で自分の意見をまとめ、友達と伝え合う。</li> </ul> <p>※2曲を比べてまとめられるようなワークシートを工夫する。  ※意見をカードにまとめ、掲示するなどして、いろいろな感じ方や捉え方があることに気付くよう工夫する。</p> <p>○ 他の日本の民謡や郷土の音楽、外国の民謡などと聴き比べる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本各地の民謡や郷土に伝わる民謡を聴き、「ソーラン節」型と「南部牛追い歌」型に分類し、何を感じ取って分類したのかを明確にする。</li> <li>・各地の郷土の音楽や祭り囃子などを聴き比べ、特徴を感じ取ったり、それらの曲について調べたりする。</li> <li>・外国の民謡を日本の民謡と聴き比べ、違いや気付いたことを伝え合う。</li> <li>・普段聞き慣れている音楽との違いや気付いたことを伝え合う。</li> </ul>	<p>旋律 リズム 拍の流れ 音色 速度</p> <p>旋律 リズム 拍の流れ 音色 速度</p>
---	---

### 【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・対極的な二つの日本の民謡の曲想を感じ取って聴く学習に進んで取り組もうとしている。</li> <li>・旋律、リズム、拍の流れ、音色や速度などの関わり合いによってつくられる楽曲の特徴に気を付けて聴く学習に進んで取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・対極的な二つの日本の民謡の旋律、リズム、拍の流れ、音色や速度などを聴き取り、それらの働きが生み出す違いや面白さなどを感じ取りながら、言葉で説明したりワークシートにまとめたりするなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。</li> <li>・他の日本の民謡や郷土の音楽、外国の民謡などを比べて、それぞれの違いや気付いたことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさに気付いて聴いている。</li> </ul>

全く違う曲調の曲を比べて聴く時に、同じ観点で聴く、つまり同じ〔共通事項〕の音楽を形づくっている要素に着目して聴くことによって、その違いや共通点がより明確になります。そのため、音楽を形づくっている要素の関わり合いのうち、感じ取りやすいものを取り上げ、それらに気付いて聴く喜びを味わうようにすることが必要となってきます。

指導する際は、主な旋律を口ずさんだり楽器で演奏したりして親しむようにしたり、音楽に合わせて体を動かす活動、学習カード、板書などを工夫して、楽曲の構造に気付くようにすることが大切になります。

平成20年の学習指導要領改訂により、鑑賞教材選択の観点について、これまで第5学年及び第6学年に位置付けられていた「和楽器の音楽を含めた我が国の音楽」が、第3学年及び第4学年にも新たに位置付けられました。教育基本法の改正や学校教育法の改正を受けて、我が国や郷土の伝統音楽の指導の充実が求められています。民謡を歌ったり聴いたりする機会が減っている児童にとって、このような鑑賞の時間は、日本の伝統音楽に触れることのできる貴重な時間といえます。

## 第5学年 B 鑑賞

題材名「いろいろな音が重なるひびきを味わおう」

教材名「双頭の鷺<sup>わし</sup>の旗の下に」 J. F. ワーグナー作曲

「アイネ クライネ ナハト ムジーク」 モーツァルト作曲

### 【第5学年及び第6学年の目標】

- (1) 創造的に音楽にかかわり、音楽活動への意欲を高め、音楽経験を生かして生活を明るく潤いのあるものにする態度と習慣を育てる。
- (2) 基礎的な表現の能力を高め、音楽表現の喜びを味わうようにする。
- (3) 様々な音楽に親しむようにし、基礎的な鑑賞の能力を高め、音楽を味わって聴くようにする。

### 【第5学年及び第6学年の鑑賞の指導事項】

ア 曲想とその変化などの特徴を感じ取って聴くこと。

イ 音楽を形づくっている要素のかかわり合いを感じ取り、楽曲の構造を理解して聴くこと。

ウ 楽曲を聴いて想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解すること。

### 【身に付けさせたい力】

本題材で中心となる指導事項 → イ, ウ

- ・吹奏楽と弦楽合奏の楽曲を聴いて、重なり合う音の響きから感じ取ったことの原因を、旋律やリズムの重ね方の違いから見付けて、自分の意見や感想を持つ。

### 【学習活動例】

学 習 活 動 例	〔共通事項〕との関連
<p>○ 楽器の音の重なりに着目して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・二つの楽曲のそれぞれ始めの部分だけを聴き、吹奏楽や弦楽合奏における楽器の音色の違いを感じ取る。</li><li>・「双頭の鷺の旗の下に」が、第3学年・第4学年で学習してきた金管楽器と木管楽器に、打楽器を加えた吹奏楽の編成により演奏されていることを確認し、それぞれの楽器が三つの部分でどのように使われているかに注目して聴く。</li><li>・「アイネ クライネ ナハト ムジーク」が、第3学年・第4学年で触れてきたヴァイオリンとチェロに、ヴィオラとコントラバスを加えた弦楽合奏の編成により演奏されていることを確認し、それぞれの楽器が冒頭(序奏及び第1主題)部分でどのように使われているかに注目して聴く。</li><li>・吹奏楽と弦楽合奏の楽器編成の違いや響きの違いに気をつけて、2曲を通して聴く。</li></ul>	音色

<p>○ 楽曲の構成や仕組みに着目して聴く。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・二つの楽曲のそれぞれ始めの部分だけを聴き、吹奏楽や弦楽合奏の音の重なり方による違いを感じ取る。</li> <li>・「双頭の鷲の旗の下に」の曲全体がいくつの部分（*ここでは大きく三つの部分）からできているかを確認し、それぞれの部分が何回出てくるか確かめながら聴く。</li> <li>・「アイネ クライネ ナハト ムジーク」の主旋律に対して、他のパートはどのような動き（伴奏、低音）をしているかに注目して聴き取る。</li> <li>・旋律やリズムの重なり方から、曲の感じ、強さ、響きがどのように変化するかについて友達と話し合い、自分の意見や感想をワークシートにまとめる。</li> </ul>	<p>音の重なり 反復 変化</p> <p>旋律</p> <p>リズム 強弱</p>
--	--

### 【評価規準例】

音楽への関心・意欲・態度	鑑賞の能力
<ul style="list-style-type: none"> <li>・吹奏楽及び弦楽合奏の音楽を形づくっている要素のうち、主旋律とその他のパートの響きや曲想の変化の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴く学習に、主体的に取り組もうとしている。</li> <li>・吹奏楽と弦楽合奏の曲を聴いて、重なり合う音の響きの違いから感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴く学習に主体的に取り組もうとしている。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・音の重ね方による変化を感じ取りながら、主旋律とその他のパートの響きや曲想の変化の関わり合いによってつくられる楽曲の構造を理解して聴いている。</li> <li>・楽器の編成の組み合わせによって、音色がもたらす雰囲気の違いから、想像したことや感じ取ったことを言葉で表すなどして、楽曲の特徴や演奏のよさを理解して聴いている。</li> </ul>

本事例でも示していますが、「B鑑賞」においては、感じ取ったことを言葉で表すなどの活動を位置付け、言語活動の充実が図られています。そこで鑑賞する際の手掛かりとなるのが〔共通事項〕です。

〔共通事項〕アを、(ア)音楽を特徴付けている要素、(イ)音楽の仕組みと二つに分けて示しているのが小学校の特徴であり、特に(イ)音楽の仕組みに着目させることで、音色やリズム、速度、強弱といったこと以外の、楽曲のつくられ方（反復、変化等）についても気付くことができます。

年間指導計画に沿って低学年から継続的に、繰り返し〔共通事項〕に関わらせ、音楽を形づくっている要素を意識しながら聴くことを通して、音楽ならではの言葉があふれる言語活動としていきたいものです。

